



Meiji University  
School of Commerce

# 2012年度 MOD'ART INTERNATIONAL French Fashion Program



# プログラムの概要

研修期間：2013年3月2日～17日  
参加人数：17名（うち明大生：12名）  
研修校：MOD'ART INTERNATIONAL学院

## プログラムの目的

- ファッションの本場パリで、ファッションビジネスに関する専門的な講義を受け、また教室内での授業の他に、現地のブティックを見学することで流行を掴む。
- 2週間の海外生活の中で自分の将来や、今自分が本当にやりたいことが何かを考える。

## プログラムの概要

春季休暇期間2週間を利用して、パリ市内にあるMOD'ART INTERNATIONAL学院にて、ファッションビジネスの中でも特にラグジュアリーに特化した講座が開催されました。

講師にはファッション企業のMDやVMD、商品企画、プレス等の実務経験者が多数いました。ブランド・マネージメントに必要とされるさまざまな部門の理論と実務についての講義と、その理論が具現化されている店舗やファッション関連の文化展、HERMÈSのアトリエ等、通常入れないような場所を先生方に解説してもらいながら見学することができ、ファッションの本場・パリにて、ラグジュアリーマネージメントに関する専門知識を身につけることができました。講義中の発言やフランス語の授業を通してアウトプットすることで密度の濃い学習ができました。



# MOD'ART INTERNATIONAL学院の紹介

MOD'ART INTERNATIONAL学院は2002年設立のパリに本部を置く私立ファッション専門学校です。デザイン科とファッションビジネス科が併設されており、特にビジネス科の卒業生はフランスの主要ブランド企業にキャリアとして多数就職しています。一流ブランドでの企業研修の機会が幅広くあり、この充実したインターンシップも学院の特長のひとつです。本科にはBac+4, MBA取得コースもあります。

MOD'ART INTERNATIONAL学院は、多くの国と交流をしており、ヨーロッパではドイツ、イタリア、ベルギー、スペイン等があります。そのほかにも中国、インド、ベトナム、韓国、ペルー等とも交流しています。（2013年3月現在、日本では明治大学のみ）

校内には、講義室、作業室、コンピューター室があり、デザイン・ファッションビジネスの分野で、幅広く学習できる環境が整っています。



MOD'ART INTERNATIONAL学院の授業風景

## 授業の様子

### 授業内容

- ・ラグジュアリー産業の要素と戦略
- ・フランスの香水産業について
- ・新進ファッションデザイナーの研究
- ・ラグジュアリーと芸術のコラボレーションについて
- ・ラグジュアリー産業のVMD
- ・魅力的なファッションショーの作り方
- ・オートクチュールの歴史



午前中は教室で、フランス語と午後に見学を訪れるブティックの知識（コンセプトやデザイナー等について）を学びました。授業は全て英語で行われたためフランス語が解らなくても問題ありませんでした。

フランス語の授業はabcの読み方から始まり、日常で使える会話を中心に学習しました。プログラム修了時には店で簡単な注文ができるようになりました。授業では先生のお手本を真似して発音を学び、フランス語らしいきれいな発音をするためのコツを丁寧に教えてもらいました。

ファッション業界に関する授業は服に限らず香水や建造物と多岐に渡る内容でした。授業を通してフランスにおけるファッション業界の奥深さを学ぶことができました。本プログラムで学んだことは"洗練"の重要性です。多くの先生方がよく使われていた言葉が"sophisticated"でした。フランスのファッション業界がなぜ世界でトップなのか、それは安くて手軽なものではなく、上品で洗練されたものを作っているからです。そしてそれを作る工程が大変であるからこそ誇りが生まれていると感じました。

## 教室外学習の様子

午後は主にブティック等の見学に行きました。訪れた場所では先生方が店のレイアウトやブランドの歴史等の説明をしてくれました。午前中に学んだことに結びついていることが多いので、今までとは違う視点でブティックを楽しむことができました。先生方は第一線で働いているデザイナーの方やVMDをやっている方々なので、非常に興味深い話を聞くことができました。ブティックに行くことによって学べることは人それぞれですが非常に貴重な経験ができました。

### 訪れた場所

- ・ HERMÈSのアトリエ
- ・ Dior
- ・ LOUIS VITTON
- ・ merci
- ・ Acne
- ・ L'ECLAIREUR
- ・ MARC JACOBS
- ・ KABUKI
- ・ RALPH LAUREN
- ・ SONIA RYKIEL
- ・ Galeries Lafayette (百貨店)
- ・ Bon Marché (百貨店)
- ・ Printemps (百貨店)
- ・ LANVINIA (ワイン専門店)
- ・ Baccarat美術館

etc....





## 参加学生の感想

初めての海外で不安でしたが、刺激的な楽しい毎日を過ごすことができました！元々ファッションに興味ありましたが、プログラムに参加することで更にファッションが好きになり、興味の範囲も以前より広がりました。二週間貴重な体験ができて良かったです。

(戸川由貴 商学部1年)

私は、このフレンチファッションプログラムで大変貴重な体験をすることができました。パリというファッションの中心の地で、多くの関係者やその作品・文化に生で触れる事で、ファッションを身近に感じ、魅力的であると再認識できました。

(橋本和彦 商学部2年)

2週間のパリでの生活は思っていた以上に刺激的でした。日本語ではなく、現地で、英語で学ぶことの価値はとても大きく、コミュニケーションツールとして語学の大切さを実感すると同時に、“ラグジュアリー産業”について学ぶ、といった具体的な目的意識をもった留学のおかげで、日本では味わえない刺激を感じました。また、同じ分野に興味をもつ仲間と一緒に過ごした日々は貴重な経験となりました。

(濱野彩 商学部2年)

今回のプログラムは私にとって大きな意義を持つものとなりました。同じ趣味を持ち同じ将来を志している仲間と出会えたことが大きな要因です。その仲間と2週間を過ごすことで、自分にとって刺激となりファッションに対するモチベーションが高まりました。

(田中凌平 政治経済学部2年)

今回フランスへの短期留学でファッションがフランス人にとって何なのか、少しだけわかった気がします。今回の経験をこれからの勉強に活かしていきたいと思いました。

(脇村匠充 政治経済学部2年)

現地のファッションの世界に生で触れることは、日本にいただけでは感じることでできない沢山の刺激を与えてくれました。本当に行っただけ良かったと思いました。

(青木嘉太郎 政治経済学部3年)

憧れのパリで大好きなファッションを学び貴重な体験が出来ました。憧れと実際のパリとの違い、歴史を感じさせる建造物、ハイブランドのブティック等、パリには私の想像を超えるものばかりでした。パリで過ごした日々と留学で出会った人々は私の一生の宝です。

(早川未花子 文学部3年)

フランスは、本当にファッションの国だと感じました。ディスプレイが凝っていて、日本にはないようなものばかりでした。しかし、貧富の差がある所だと知りました。ファッションだけでなく、フランスという国の事も学ぶことができ、いい体験をさせて頂きました。

(平野未樹 文学部3年)

授業だけでなく、現地の人、フランスの街、歴史、芸術を肌で感じながら総合的に学ぶことが、フレンチファッションをより深く理解するためには大切だと思いました。非常に充実した刺激的な留学でした。

(藤田咲紀 農学部4年)

大好きなファッションをパリで学びたいという目的で参加したこのプログラムでしたが、実際にパリでの二週間の生活を終えて、ただ単にファッションについて学べただけでなく、自分の将来について深く考え直すきっかけにもなったと感じています。

(鶴岡美歩 経営学部2年)

将来、アパレル関係の仕事に就きたいと思っている自分にとってこのプログラムはうってつけでした。ここで学んだことによって自分の道が見えたとし、一緒に過ごした仲間との時間も最高のものでした。養ったものを生かしてこの先も頑張っていきます。

(岡崎渥毅 経営学部2年)

モデル・インターナショナル学院への二週間の短期留学では、多くの新たな知識と価値観を得ることができました。最後の発表では、自分が授業を通して思ったこと、感じたことを発表しますので、広い視野を持って取り組むといいと思います。

(島田淳平 経営学部2年)

